

DAIDO CAMPUS

大同工大キャンパス

No.51 2005.1

第41回 大同工業大学 錦杯 レガッタ大会



巻頭特集 / 3期目を迎える澤岡 昭学長に聞く

特集記事：大同工大の卒業研究レポート

大同工大同窓会40周年記念事業：星野仙一講演会 ほか

学生の活躍：東海学生駅伝競走、大同工大レガッタ

トコトン先生大活躍：

堀 美知郎先生燃料電池、佐藤 壮一郎先生ロシア遠征 ほか

元気印の卒業生 (株)生方製作所 CSセンター 設計グループ 孫彪氏

ひそかなグルメスポット 蕎麦・沙羅餐俱樂部(さらざんくらぶ)

就職トピックス / 開かれた大学 / 巻末トピックス

庄内川ボートコースでのDITレガッタ大会

「夢のある明るい大学へのイメージ 転換を図り、それを積極的に発信したい。」



日本経済新聞の取材を受ける

今年4月から大同工業大学の学長として3期目を迎えることになった澤岡 昭学長を、新年早々直撃インタビューして、大同工大に懸ける熱い思いを語ってもらった。

編集部:月並みですが、まずは3期目を迎えられる心境をお聞かせください。

澤岡学長：私が大同工業大学の学長に就任したのは1999年4月でした。この度、4月からさらに3年間、学長職第3期を務めることになりました。初心に立ち返って、より良き大同工業大学にするために精一杯努力しますので、今まで以上ご支援下さいますようお願いいたします。また、皆様のご意見をできるだけ伺うことを願っております。教職員だけでなく、学生やご父母の皆様もお気づきの点は遠慮なく、電子メールアドレス、gakucho@daido-it.ac.jpにお知らせ下さい。

一昨年の秋以降、大同工大もマスコミに取り上げられることが多くなりました。

元来、本学は地味でコツコツと頑張るタイプの大学であり、社会への発信が上手ではありませんでした。広報することは恥ずかしいことではなく、十分な発信なしでは大学の発展はあり得ないと確信して努力してきました。情報を発信するには、それにふさわしい内容が必要です。本学は徐々に知られる大学へと変化してきたように思いますが、まだまだ十分ではありません。これから3年間、夢のある明るい大学へのイメージ転換を図り、そのことを積極的に発信したいと考えています。

学長の描かれてきた夢がひとつ実現するとお聞きしました。

2006年度にロボティクス学科を新設することになりました。この学科設置は、数年前から検討してきたもので、やっと正夢になりました。わが国のロボットブームは加熱する一方です。3月から始まる愛知万

博でもロボットは大々的に取り上げられます。ブームは必ず去ってゆくものですが、ロボット技術は将来の日本を支える重要なものですので、ブームに関係なく充実しなければなりません。

元来、大同工業大学こそはロボット技術教育の中心になるべき大学であったはずですが。本学は本腰をいれて2006年度にロボティクス学科を設置します。ロボティクス学科は、機械、電気電子と情報が融合した領域であり、場合によっては人文社会の領域と融合した幅広い総合学科を目指すものです。

学生は毎日が興奮の連続であり、大学へ行くのが楽しくてしかたがない。そのような夢のある、わくわくする学科にしたいと考えています。

澤岡学長の大仕事、教育改革も4月で5年目に入ります。

本学は2年間の準備を経て、2001年度から大規模な教育改革を始めました。今年3月で一区切りの4年間が終了します。情報学部は2002年度に設置されたので、大学全体としては来年3月に大きな区切りの時期を迎えることになります。今年の6月までに過去4年間の教育改革を振り返って、2006年度から4年間の第2期教育改革に備えることになります。

第1期の教育改革の2大目標は、学生にとっては「しっかり勉強すること」、教員にとっては「良い授業をすること」です。大学教育は単位制度に基づいて行われています。1単位とは45時間の学習によって与えられるものです。これを実行するには、1時間の授業に2時間の予習復習が必要です。しかし現実には、1時間の授業に対して1時間の予習復習すら行われていません。これを何とかして目標の2時間に近づけよ



日本経済新聞
12月11日



うと努力してきましたが、十分な成果が挙げたとは言えません。

今後どうしたら、学生が進んで勉強し、そのことに喜びを感じることができるか、新しい仕組みをつくり出したいと思います。学生からの提案も大歓迎です。遠慮なく意見を gakucho@daido-it.ac.jp に送って下さい。

本学の更なる発展のために描かれている夢は何ですか。

大同工業大学のイメージをしゃれた大学へ変えるきっかけとなるような新学部を設置が必要です。新学部を設置は多額の資金と、うまく行かなかった場合のリスクがありますので、慎重に行う必要がありますが、思い切った挑戦なしでは新しい展望を切り開くことはできません。

私は、社会や人間生活と深い接点のある分野の専門家を育成する学部の設置が必要であると考えています。その一つが、動物と植物と人間の共生を研究し専門家を育てる人間生物学部です。その一例が高齢社会の都会における犬や猫と人間の共生のための科学です。お年寄りばかりではありません。動物が人間の伴侶として生活を共にすることの重要性は高まる一方です。

自然科学や工学を背景に、人文社会科学と密接な関係をもつ人間生物学部の設置こそ2005年を迎える私の夢です。2010年ごろに大同工業大学は工学や情報学と全く異なる分野の新学部を設置して、生まれ変わることが私の初夢でした。

最先端の卒研テーマが目白押し!

情報機械システム工学科 大嶋 和彦 助教授 研究室



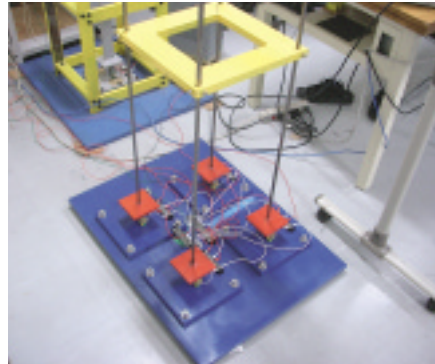
大森(04MM) 松野
大竹 山森 大嶋先生 安藤 中嶋
山崎(00M) 朝倉(03MM) 藤松 杉山 水野(英) 廣畑 山田 水野(誠)

名前だけの学生の所属は全て、01Jです。

多くの説明は必要なかろう。下記のように6つのテーマのタイトルを見れば、如何に興味深い最先端の研究が進行しているかわかるはず。いずれも未来を予感させる意欲的な研究です。



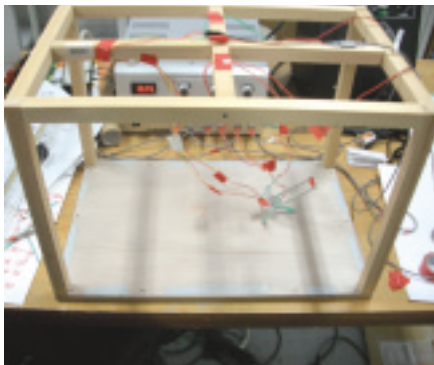
①小型ソーラーカーの製作



②地震による高層ビル揺れを抑制する制御装置の開発



③3D-CADを利用したトランペット型スピーカーの設計と製作



④バイモルフ型圧電素子を利用した昆虫ロボットの設計と製作



⑤動力補助付老人用カートの試作



⑥アニメトニクスに基づく顔ロボットの製作

昨年10月、マスコミに 大ブレイク!

機械工学科 鈴木 桂輔 助教授 研究室

昨年10月から11月にかけてマスコミに大ブレイクした鈴木研究室。運転中の携帯電話使用に関する実験で、「ハンズフリーでも万能ではない」との結果を発表するや、マスコミの取材攻勢への対応を余儀なくされたが、鈴木研究室の卒研テーマはそれだけではない。まずはテーマをご覧ください。



鈴木先生を囲んで左から菰方、川下、国枝、清水、青木、前谷、稲垣の卒検生たち(いずれも01M)



1)携帯電話の使用が運転特性に及ぼす影響



2)車椅子使用の観点からのバリアフリー化の現状調査

3)車椅子による登坂操作時の筋負担の評価



4)模型車両を用いたセミトレーラ牽引時の安定性解析

5)模型車両用タイヤの運動特性の解析

6)四輪操舵(4WS)車両の運動解析

携帯電話だけではなく、バリアフリー、車椅子、車両など、テーマは様々でも、これからの社会に有益な研究ばかりである。

同窓会創立40周年記念事業、 大イベントを3つ開催

イタリア在住40年、インダストリアルデザイナー 佐藤和子講演会で大同工業大学同窓会創立40周年事業開幕。

11月26日午後2時40分からゴビーホールで、佐藤和子講演会が開催された。この講演会は、同窓会が主催し、澤岡学長が個人的にも親しい佐藤和子氏に講演を依頼して実現したもの。

イタリア在住40年で日本人のインダストリアルデザイナーの草分けとなった佐藤氏は、集まった聴衆に対して貴重なイタリアでの留学・業務経験を熱く語った。また自らの作品などを紹介した。学生たちからも様々な質問が出て、盛況のうちに幕を閉じた。

なお講演会終了後、D棟1階のユメディオに完成した「撮影・編集・録音スタジオ」の完成披露会が開かれたが、佐藤氏にはこの披露会へも参加していただいた。



ユメディオ完成パーティにも出席

星野仙一講演会に会場盛り上がる!

11月27日土曜日、同窓会のメイン・イベント、星野仙一講演会が、大同高等学校体育館で開催された。講演会直前に盲腸の手術をした星野氏が元気に講演、中日ドラゴンズ監督から阪神タイガース監督へ転進した経緯や、阪神の18年ぶりの優勝までのエピソードを詳しくユーモアをもまじえて紹介した。

会場から事前に寄せられた数多くの質問に対し、星野氏は丁寧に答え、予定時間をオーバーして講演会を終えた。講演会の司会は71年度機械工学科の学生だった井上孝司助教が務めた。「星野氏は予想していたよりはるかに紳士だった」とのことだった。





同窓会創立40周年記念パーティー、石井記念体育館で華々しく開催!

星野仙一講演会に引き続き、会場を大学石井記念体育館に移して、同窓会創立40周年記念パーティーが華やかに開催された。吹奏楽団の開幕曲演奏に始まり、宮本一男同窓会長、田中卓理理事長、澤岡昭学長の挨拶に引き続いて、広い会場にそれぞれの年代ごとのテーブルが数多く設けられ、久しぶりに再会する同期の学友たちとの会話に花が咲いていた。

また様々なアトラクションや、同窓会の会員たちの「芸達者」によるカラオケ大会で大いに盛り上がった。さらに同窓会が制作したバスタ

オルやTシャツをはじめとする「同窓会グッズ」の販売にも同窓生たちが集まり、人気を呼んでいた。

会場の入り口には、大同工大の発展を抜粋して制作した「大同工大の発展パネル」が9枚掲げられ、同窓生たちが見入っていた。更に大同工大40周年をコンパクトにまとめた「大同工大40年の歩みリーフレット」や記念品をお土産に用意し、午後6時半、盛況のうちに記念パーティーを終えた。



陸上競技部

東海学生駅伝競走大会で陸上競技部、エース不在でも7位と健闘!!

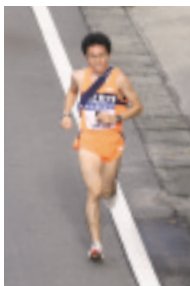


力走する選手たち、1区 幅

12月5日曜日、半田市から知多半島を一周し武豊市に至る全長104.5キロのコースで行われた東海学生駅伝競争大会で、わが大同工大陸上競技部は7位と健闘した。

天気は快晴ながら強風が吹くコンディション、1区を任されたのは1年生の幅光宏選手(04J)。頑張って予想を上回る12位のスタート。2区の道家崇文選手(03J)が快走して順位を9位へ。3区の片桐雅樹選手(01E)も区間5位の力走で順位を7位へ上げる。4区、各校のエースがそろそろ最長12.7キロでは、チームの柱となる奥野宏選手(02C)が区間6位の走りで7位をキープ。5区は4年生の宇野彰紘選手(01M)が最上級生として頑張り、区間5位の走りで順位を6位へ上げる。6区は強烈な向かい風区間。これまで怪我に泣いてきた南康次郎選手(02M)が6位をキープして最終7区のアンカー荻野秀磨選手(03E)へ。昨年も7区を走った荻野選手は怪我上がりの走りこみ不足から順位を一つ落とし、7位でゴールした。

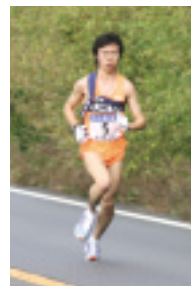
試合後の選手たちは、一様に消化不良に終わった悔しさを口にしていた。次のレースは来る2月6日の名岐駅伝。4年生を中心に悔しさをぶつけるレースになると期待できる。12月26日と1月9日の2回コースを試走し、2月6日の本番に臨む。



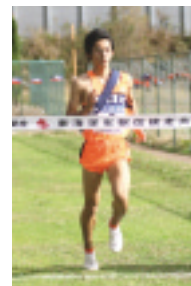
2区 道家



3区 片桐



4区 奥野



7区 荻野

第39回大同工大錦杯レガッタ

2004年度大同工大レガッタ大会、好天に恵まれ、熱戦を展開!



第39回目を迎えた大同工大錦杯レガッタ大会は、11月7日、好天の庄内川ポートコースに、一般の部と学生クラブの部合計180名が参加して、朝8時から開催された。

一般の部には女性ばかりのチームも新たに参戦、惜しくも敗者復活戦で破れ準決勝には進めなかったものの、大会前にメンバーで練習を重ねて、500メートルのコースで男子の3チームをリードし、「あわや!」というところまで追い詰めるなど健闘が光った。



また学生の部には、初めてオールを握る陸上競技部チームも参加。「駅伝シーズンを控えた腕試し」としてはほろ苦い結果に終わった。

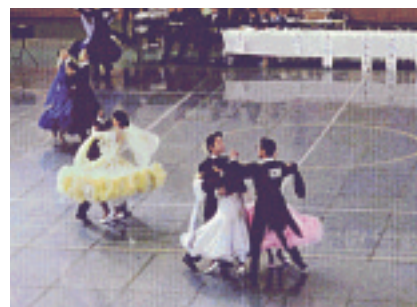
優勝は、一般の部が事務職員で作る「筋肉室」が常勝「山田錦」の7連覇を阻み、学生クラブの部では、モーターサイクルスポーツの「ピンクエンジェル」が見事初優勝に輝いた。

ダンス部

全日本学生競技ダンス連盟主催「東西対抗戦」、本学石井記念体育館で開催。

11月7日、全日本学生競技ダンス連盟の「東西対抗戦」が開催され、全国の大学から400名の選手が参加し、華やかな社交ダンスで観客を魅了した。

本学ペアは残念ながら入賞はならなかったが、競技のほかに、会場設営から運営、そして後始末にと大車輪の活躍だった。

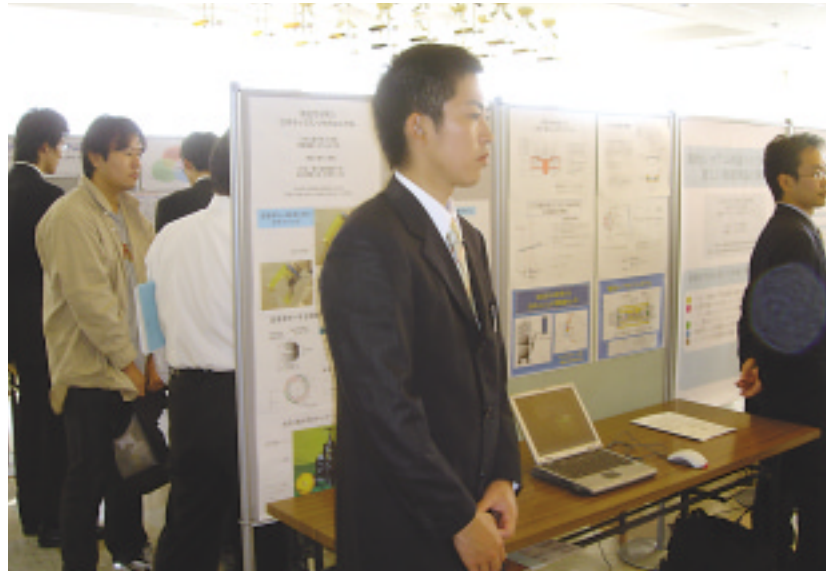


計測自動制御学会中部支部オープンラボで西堀研究室が大活躍。

11月30日、豊橋科学技術大学で開催された計測自動制御学会中部支部のオープンラボで、情報機械システム工学科西堀賢司教授と研究室の学生達が大車輪の活躍をみせた。

同学会中部支部のオープンラボは、大学と産業界・官庁という実業界との関係を密にして共同で発展しようと数年前から始まった取組みで、大学と産官が情報交換して共同で取り組める土壌づくりが当面の目的。

大学関係者50人、産官業界40名、合計90名が集まって大盛況。西堀研究室では、「創造性を育むロボティクス・メカトロニクス」と題して、サッカーロボットや超音波センサーを持つロボットハンドなど、先生と学生たちが取り組んでいる研究内容とその成果を参加者にPRしていた。



研究室案内係の院生 大谷純一君(03MM)

電子情報工学科 杉浦貴昭君をテレビ愛知が取材し15分番組にして放送。

テレビ愛知で毎週土曜日午前7:00から放送中の番組「青春ナビ～さがしてみよう、明日の自分～」で、電子情報工学科の4年生、杉浦貴昭君(01D)の特集が放送された。

この番組は、いろいろな青年の活動や生き方にスポットをあて、ドキュメンタリーとして紹介するというもの。今週11月13日の放送では、「もっと教えて!先輩」と題し、杉浦君の青春にスポットが当てられた。教職をめざして母校の聾学校で教育実習に励むひたむきな姿、大学での手話同好会やスポーツを通じて人と関わりながら充実した学生生活を送る様子など、杉浦君の積極的な生き方が描かれ、好評を博した。



情報学部 河尻君、三重県の高校で授業、その模様が三重テレビで紹介される。

「出前講義で『情報社会の常識』を教えます...」河尻純平君(04B)が12月9日・10日の両日、三重県e-デモ会議室からの要請により三重県立昇学園高校の教壇に立った。

三重県では、昨年度から外部の講師を招いてインターネットを用いたコミュニケーションスキルを高めることを目的に、県内各地の県立高校で出前講座を開始しており、今回は講師役として河尻君に白羽の矢が立ったというわけ。出前講座の様子が、12月16日午後6時30分から約10分間に渡って三重テレビで放送された。本人もスタジオで生出演して、司会者と語り合った。



半導体は日本、 住むなら名古屋、 大学は大同!

.....
(株)生方製作所 CSセンター 設計グループ
中国人留学生

そん びょう
孫 彪 氏

1996年3月大学院電気・電子工学専攻修士課程修了



執務中の孫さん

父の勧めで理系に進学。 半導体を研究対象に選ぶ

1972年中国上海生まれ。両親は学校の教師。小学生のときに文化大革命が終結。語文(国語)の教師だった父の勧めで理科系進学を志す。

1980年上海大学工学部半導体専攻に入学。大学は全寮制で学費は全て国費。デバイスと電気回路の研究に没頭した。

1984年卒業と同時に上海半導体公司に入社、半導体研究に携わった。当時半導体の資料は日本とアメリカから届いていた。それを見るうち日本で半導体を徹底的に学ぼうと日本の大学進学を決意した。

住むなら名古屋、 大学は大同!

日本へ行くなら名古屋へ行くこと決めた。東京、大阪は住みにくいと思った。1992年来日。名古屋空港に降り立ったとたん、それまで1年間中国のラジオ講座で勉強してきた日本語が全く通じないことが判明、1年間日本語学校で日本語を勉強した。

いよいよ大学を選ぶ段になって、数ある大学の中から迷わず大同工大を選んだ。なぜか?何と父親の名前が「孫 大同」さん、縁を感じて即決。1993年に研究生、1994年に試験を受けて大学院電気・電子工学専攻に入学、和田隆夫先生の研究室で半導体幕を研究。2年で修士号を獲得した。

技術開発を通して日中の 民間交流を進めたい!

勉強の成果を日本企業で生かしたいと思った。まだ中国企業に籍はあったが、三栗谷先生の紹介で大同工大から程近い(株)生方製作所に就職した。地震振動に反応するガスメーター用感震器、エアバッグ用の加速度センサー等を製造する同社が、中国にも合併会社や独資会社を持っていることも好都合だった。

センサーの開発に携わった。プロジェクトリーダーとして「無重力センサー」という重力を失った途端に衝撃を感知できるセンサーを開発したことが、一昨年5月テレビ愛知の「ニュース・アイ」に紹介された。

今名古屋で4人家族生活。子供さん二人は男の子で小学校5年生と幼稚園の上級組。4人は家では中国語、外では日本語を使いこなす。「日中をつなげる仕事をしたい。技術開発で日中の民間交流を進めたい」と孫さんは今日も新たなセンサー開発に取り組んでいる。



44人の弟子たちの
名札

ひそかな グルメスポット⑦

DITの近くの学生向けグルメを紹介します

蕎麦・沙羅餐倶楽部 (さらざんくらぶ)

～ 一流企業の営業マンから手打ちそば屋に転進! ～



工場の2階にあるお店



ゆったりとした店内

沙羅餐(さらざん)とはフランス語で「蕎麦」

所は星崎1丁目。名前もそうだが、店のロケーションも変わっている。新幹線高架のすぐ隣、何と国光社という工場の2階にある。入り口は一見イタリアンレストラン風、木製の扉を開けてもそば屋とはすぐには思えない。カウンターとボックス席に、京都の庭園にあるような赤く大きな蛇の目傘、店の奥には薪ストーブがある。ガラス窓の向う側の部屋が蕎麦道場、鉄扉の向こうにはそば粉を引く機械が鎮座している。ここ沙羅餐倶楽部はそばレストランであり、蕎麦道場であり、蕎麦工場でもあるのだ。



おいしいソバに天ぷらも...

43歳で脱サラ。 PC営業からそば屋へ転進

オーナーは服部 隆さん56才。大学卒業後有名事務機メーカーでシステム営業をしていた。43才、勤続20年で早期退職制度に第1期生として応募、出張そば屋を始めた。「挽きたて、打ちたて、ゆでたて」の「3たて」にこだわる「元気のいいそば屋」をめざした。

当時手打ちそば屋は「未開拓のすき間産業」で、国光社の工場の2階に店を構えた。その工場は戦前、クボタと並ぶ農機具メーカーで、今は製粉機メーカー。その機械でそば粉までの工程を短縮した。



オーナーはすご腕!

「精閑の歓び」に学び、名古屋を日本一の蕎麦名所にする

三国志の「精閑の歓び」に学び、今までの13年間に蕎麦打ちの弟子たち44人を送り出した。「信州はじめ蕎麦どころ各地から蕎麦を学びに来た弟子たちを送り出すのは痛快。名古屋を蕎麦の名所にしたい」と意気込む。中部国際空港でも請われて出店する。そば粉はもちろん直送だ。服部氏にとって「出張蕎麦」は原点。いろいろな人との出会いが、蕎麦を越えてアート、音楽と仲間を広げている。名古屋市はじめ各地から「1日蕎麦教室」開催の依頼も後を絶たない。いただいた蕎麦は絶品だった。



お昼のメニュー

信州からそば打ちを
学びに来るソバ教室▶



トコト先生! 大活躍!

機械工学科 堀美知郎教授研究室、 三重県と燃料電池研究・振興で足並みを揃える。

昨年堀研究室が担当した岐阜県一宮高校での燃料電池実習が三重県の目に留まってから、堀研究室には三重県から熱烈にラブコールが届いていたが、昨年12月10日、三重県立高校の先生方を集めて、堀研究室発明の「高校生でも出来る燃料電池組立て講習会」が、A棟の第1会議室で開かれた。

四日市市を中心に、県挙げて燃料電池中心県にしようと努力している三重県では、まず県内で燃料電池の可能性をPRしながら、次代を背負う人材に燃料電池に興味を持ってもらおうというプロジェクトを立ち上げ、その技術顧問に堀先生を指名した。堀先生も三重県出身であることから友好が深まり、今回の講習会となったもの。この講習会に申し込みをする高校の先生方も多く、年明けに2回目の講習会が行われる。

堀先生によれば、今後燃料電池の国家プロジェクトもスタートすることになり、そこで大同工大が積極的な役割を果たすことが出来る能力を精力的に蓄積しつつあるという。その取組には大いに期待できる。



高校の先生方、燃料電池組み立て中



教養部 佐藤壮一郎講師、ハンドボールU23日本代表チームの コーチとして年末年始ロシア遠征。



選手団全体写真 後列左端が佐藤先生

DITハンドボール部監督の佐藤先生が、12月20日から1月7日まで11日間のハンドボールU23日本代表チームコーチとしてロシアで開催された第17回世界学生ハンドボール選手権大会に参加した。

当初12カ国の予定が6カ国とはなったものの、日本代表は、2勝2敗1引分けで出場国のうち第4位。特に強豪クロアチアと引分け、昨年銅メダルのトルコに勝ったのは大きな成果である。佐藤先生によれば、ヨーロッパの2メートルの選手たちに日本選手が対等に当たり負けしなかったのがよかったそうだ。残念ながら大同工大の選手は惜しくも補欠で遠征には参加できなかった。



都市環境デザイン学科 棚橋秀行助教授、 日刊工業新聞に研究成果が掲載される!



「短期間で簡単に油汚染土を浄化」という見出しで、棚橋先生の土中の油を回収し土壌を浄化する実験結果が日刊工業新聞12月17日のトップページに掲載された。

先生の考案した技術は、界面活性剤と炭酸水素ナトリウム(重曹)の混合溶液を汚染土全体にしみ込ませ、「漬け置き状態」にして土中の油を乳化して回収するという簡単にできる浄化技術。エンジンオイルなど粘性が強く揮発性の低い油を含んだ土壌の浄化に適している。このほど大型土曹を使った浄化実験に成功したことで新聞に掲載された。今後は実際の地盤で実験し実用化を目指していく。



情報学部 檀田珠実助教授、 東京の「日本の新進作家 新花論(しんかるん)」 に出品。

昨年12月26日から2月6日まで東京都写真美術館で開催されている「日本の新進作家 新花論(しんかるん)」に、檀田先生が今年も新作を出品している。今年の共通テーマは「花」。檀田先生は出品できる4人の作家に選ばれた。

今回、先生の2.7m×12mに及ぶ大型プリントは、キャンソン総合デザインセンター・ビジネスデザイン部との共同研究サポートにより実現。また初めて作品に取り入れた「匂い」は、資生堂香料開発局の協力を得て完成した。早くも中日新聞が紹介している。

檀田先生は、1983年度から国内、海外の個展、グループ展に数多く出展し、その作品は朝日新聞、中日新聞はじめ各新聞はもとより、流行通信、エル・デコ、美術遊覧、版画芸術、アサヒカメラなど蒼々たる雑誌・専門書で毎年紹介され好評を博してきた。更に展覧会での作品発表に加え、各種書籍への挿画など幅広い創作活動を展開している。



1月12日付中日新聞が紹介



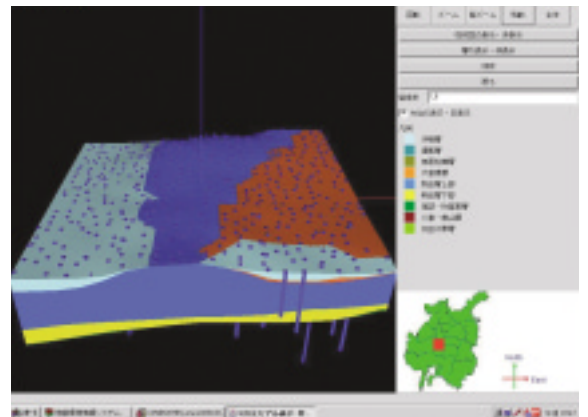
先生の大作の部分

都市環境デザイン学科 大東憲二教授、 建設技術フェア2004にブース展示。

11月17日、18日の両日ナゴヤドームで開催された「建設技術フェア2004中部」に、大東先生の研究室がブース展示に参加した。

建設技術フェアは、産・学・官の技術交流の場を通じて技術開発の促進を図ると同時に、学生、一般に建設技術の最先端を展示して、建設の魅力と今後の展望を体験してもらう主旨で、今年211の団体が参加して開催された。

大東研究室は、「地域環境情報システムを用いた名古屋地盤の可視化」と題して、名古屋市の地盤構造図を二次元、および三次元の映像で紹介した。



大東研究室で紹介した三次元地盤構造図

都市環境デザイン学科 嶋田喜昭助教授、 日本都市計画学会中部支部 研究発表会を演出。

10月29日、大同工大で日本都市計画学会中部支部第15回研究発表会(実行委員長は都市環境デザイン学科舟渡悦夫先生)が開かれ、同学会の幹事、都市環境デザイン学科嶋田先生が見事に演出した。

午前中は各発表者の研究発表会、午後は「これからの臨海地域整備 その現状と問題を探る」というタイトルで、シンポジウムが開かれ、活発な議論が展開された。嶋田先生は発表会の司会に、シンポジウム運営にと大車輪の活躍だった。



発表会の司会を務める

杉浦正勝 就職指導部長 (情報機械システム工学科教授) 中部経済新聞「就職最前線」に登場。

12月17日の中部経済新聞「就職最前線 - 大学担当者に聞く」で、就職指導部長杉浦先生が取材を受け、その内容が掲載された。

この記事の中で先生は、まず本学がひとつのカリキュラムを掘り下げて学べるキャップ制導入や、言語表現法などのカリキュラムで学生のプレゼンテーション能力を向上させている実績を紹介した後、就職率の高い大学としてマスコミや高校生に認知されていること、就職ガイダンスを学科ごとに、また女子学生用にも実施している決め細やかな就職指導体制を紹介。最後に地元企業の企業説明会を実施してパイプの太いことを力説している。



3年生の就職ガイダンスも大詰め、早くも就職試験開始。

工学部、情報学部の3年生対象に実施してきた就職ガイダンスもいよいよ大詰めを迎えている。年明けには1月11日から各学科最後のガイダンスを開催、2月中旬には出陣式となるガイダンスを開いて、2月23日からの大同工大独自の企業説明会に臨む。

2005年度の就職では、情報学部学生が初めての就職活動に挑む。特にソフトウェア活用コースの学生は過去に実績のない業界の就職を目指すことになる。情報コンテンツ制作やドキュメンテーション部門の就職試験は早いところでは2月にスタートする。その意味でも学生諸君の積極的活動と大学各組織のきめ細かい支援活動が決め手となる。



週刊エコノミスト、再度全国大学就職ランキング特集発刊。 大同工大は、就職率で全国6位、教育力で2位!

毎日新聞社の週刊エコノミストが、昨年7月に発表して以来、2003年度の就職ランキングを11月にも発表した。大同工大はここでも第6位にランクインした。7月のランキングは2002年度実績に基づき、今回11月のランキングは2003年度実績に基づいている。

もうひとつ注目すべきは、大学の教育力ランキング。すなわち学生たちの在学中に学生たちを成長させる教育力を同誌独自の基準で判定して出したランキングでは、大同工大は全国2位。その教育力が高く評価されたことになる。

順位	大学名	就職率(%)	教育力
1	東北女子大学*	93.4	93.1
2	大同工業大学*	93.1	90.1
3	金沢工業大学*	90.1	88.7
4	聖カタリナ大学	87.9	87.5
5	中国学院大学*	87.5	87.5
6	大同工業大学*	86.0	85.0
7	岐阜学院大学*	85.0	85.0
8	聖隷クリスティーア大学*	85.0	85.0
9	静岡理工科大学*	85.0	85.0
10	女子栄養大学	85.0	85.0



小学生ハンドボール教室開催。 NHK総合テレビのニュースで、3回紹介される。

地域貢献の一環として社会交流エクステンションセンターが主催した公開講座「ハンドボールを楽しもう」が、12月4日と11日の土曜日、2週連続で朝9時から12時まで石井記念体育館で開催された。

講師は佐藤壮一郎先生。齋藤慎太郎先生と大同工大ハンドボール部員がサポートして、賑やかなハンドボール教室となった。教室に参加した小学生たちは2回目の11日になると試合ができるまでに上達、ちょうどこの日はNHK名古屋放送局が取材に訪れ、ハンドボール教室の様子が総合テレビで、12時10分の定時ニュース名古屋版、18時45分と20時45分のローカルニュースと、当日合計3回放送された。楽しい教室や小学生たちへのインタビュー、そして佐藤先生へのインタビューなどが紹介された。



NHK総合テレビ
取材中



インタビューを受ける小学生



佐藤先生の遊びを取り入れた準備運動

大同工大・映画試写会、上映会開催 ディズニー映画「Mr.インクレディブル」に申し込み殺到。

この冬の人気映画、ディズニー製作の「Mr.インクレディブル」を選び、大同工大映画試写会・上映会が賑やかに開催された。

今回は11月24日に映画試写会、そして12月7日には、名駅のピカデリー1で夜の部上映を借り切った上映会と2回にわたって開催した。特に12月7日の上映会では、情報学部横山弥生助教授のアニメーション原理の解説に同先生制作による「横山弥生の驚き回転盤・フェナキスチスコープ」プレゼント、そして映画のキャラクターぬいぐるみプレゼントと、映画上映前に盛りだくさんのイベントを開催して盛り上がった。



入場する来場者たち



上映会司会の社会交流
エクステンションセンターの片岡室長



横山先生のアニメ解説

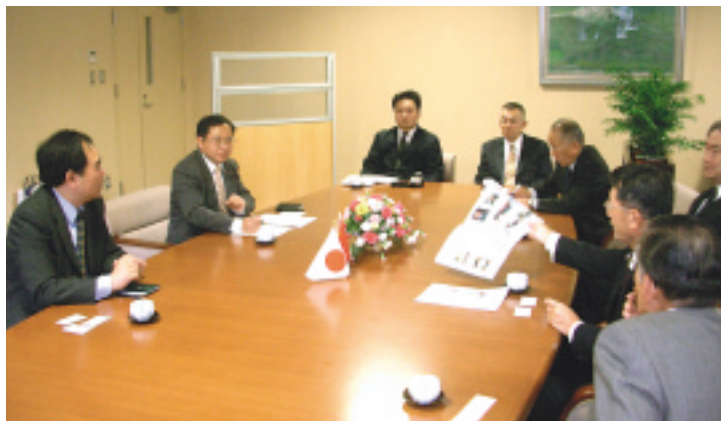
D棟のコメディオに、メディアスタジオ完成!

D棟コメディオにメディアスタジオが完成、11月26日完成披露パーティで紹介された。最新機器を備えた撮影スタジオ、編集ルーム、MA(録音)スタジオで、充実した指導が期待できる。



中国河海大学から代表団来学、田中理事長、澤岡学長らと懇親を図る。

昨春秋、都市環境デザイン学科事口壽男教授、舟渡悦夫教授、渡邊慎一助教授が中国河海大学を訪問したのを受けて、12月16日、同大学からの訪問団が来学、田中卓理事長、澤岡昭学長らと懇談した。



大同工業大学校歌が書籍で紹介される

(株)ヤマハミュージックメディア発行の「発掘!校歌なるほど雑学事典」に本学の校歌が紹介されています。

この本は、校歌を様々な側面から観察し、数々のおもしろい作品に着目して取り上げた校歌のトリビア満載の本です。各県別に校歌が紹介されており、本学の校歌は愛知県のコーナーに掲載されています。



♪木曾の流れは
長くして
電力を生み
製鋼と学校起こる……♪

DITのクリスマス。

大同工大のクリスマス、今回は吹奏楽団有志によるクリスマスコンサート、情報学科井上茂樹教授による珍しいアンデス音楽とサンポーニャ演奏会、そして電気電子工学科佐藤義久教授の風力発電実験装置によるクリスマスイルミネーションと多士済々だった。



クリスマスイルミネーション



吹奏楽団有志のコンサート(混合5重奏)



井上先生サンポーニャ演奏

人事

採用 / H16.12.1付

専任事務職員

甲谷 昭一 / 就職指導室 主席部員

編集後記

大同工大の新年が明けました。酉年にちなんで大いなる飛躍を教職員一同誓い合いました。でも大大学にとっては2004年度が3月まで続きます。最後の仕上げの重要な3ヶ月となります。

本年4月より、澤岡昭学長の3期目がスタートします。「夢のある明るい大学へのイメージ転換を図り、そのことを積極的に発信したい」という学長の抱負に向って、全員で大いに挑戦しましょう。

編集部では、大同工大の情報を積極的に発信するためにできるだけ多くの情報をお寄せいただくよう、毎号この編集後記をお願いしております。最近は少しづつではありますが、情報をお寄せいただくことが増えております。メール、口頭、メモ、ファックスと何でも結構です。遠慮は無用です。どしどしお寄せください。お寄せいただいた方には、もれなくDITサポーターバッジを差し上げます。

